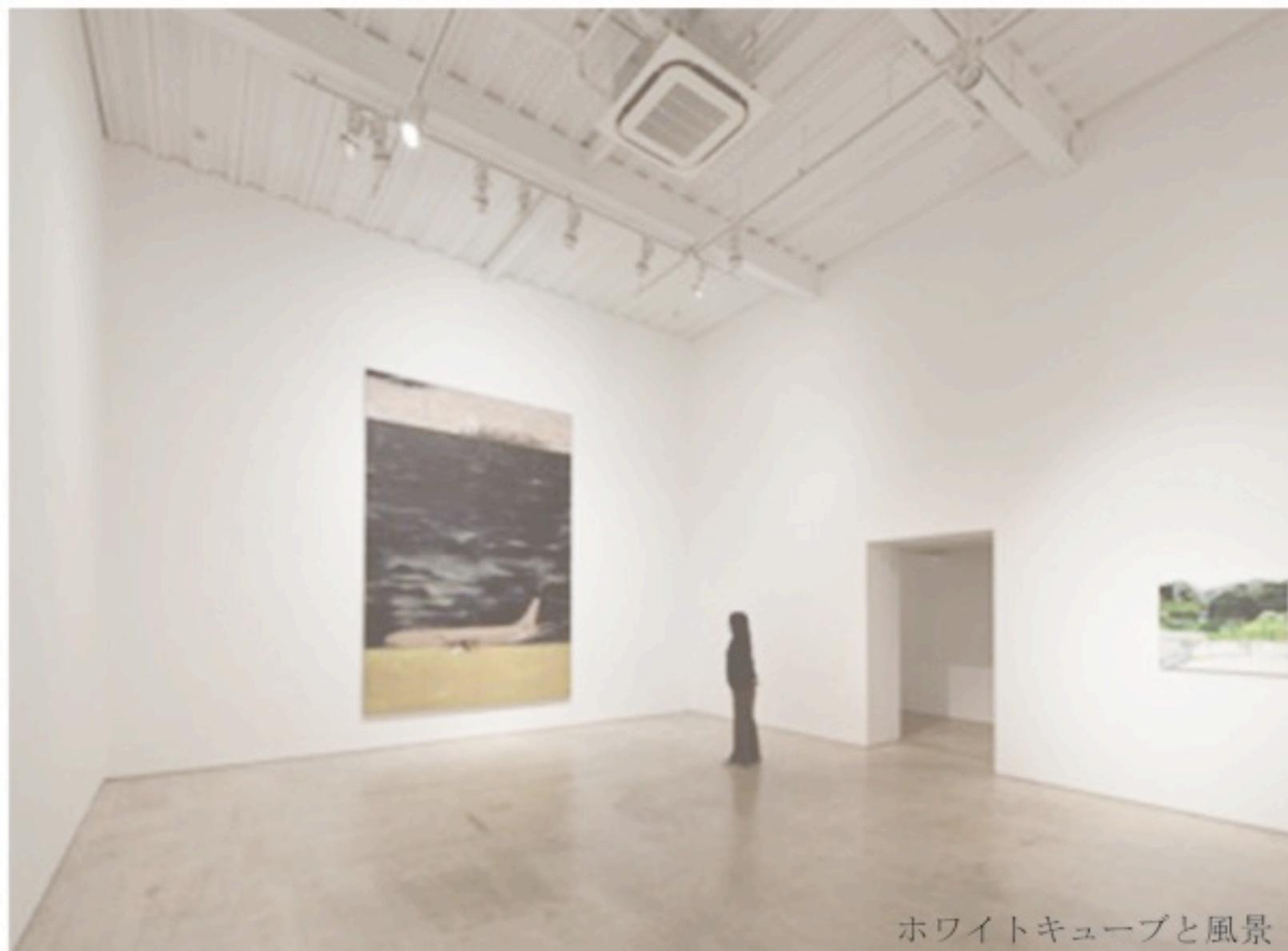


美術館内部から見える風景とシークエンス
—谷口吉生の美術・博物館における設計手法の再構成—

4109103 本田 佳奈子



ホワイトキューブと風景





外部風景の効果的な取り入れ方、見せ方を探る。





1. 資生堂アートハウス

2. 土門拳記念館

3. 長野県信濃美術館東山魁夷館

4. 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

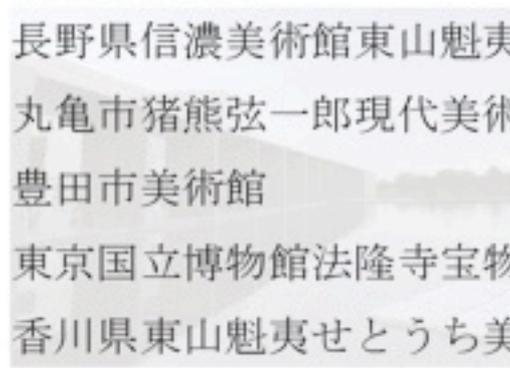
5. 豊田市美術館

6. 東京国立博物館法隆寺宝物館

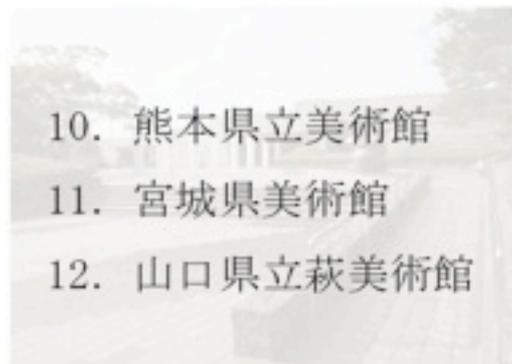
7. 香川県東山魁夷せとうち美術館

8. ニューヨーク近代美術館

9. 鈴木大拙館







- 10. 熊本県立美術館
- 11. 宮城県美術館
- 12. 山口県立萩美術館



分析1 「どのように風景を見せているか」

建築物（開口部）の構成要素の分析（文献）

分析2 「どのような風景を見せているか」

建築物から見える風景の構成要素の分析（現地調査）

分析1 「どのように風景を見せているか」

建築物（開口部）の構成要素の分析（文献）

分析2 「どのような風景を見せているか」

建築物から見える風景の構成要素の分析（現地調査）

1. シーン数

シーンとは、何らかの要素（室タイプ、壁タイプ、境なしタイプの3タイプに分類される）によって分けられる、一定の場所の中で見える風景のことを指す。



2. 土門拳記念館 (1983)

2. 開口数

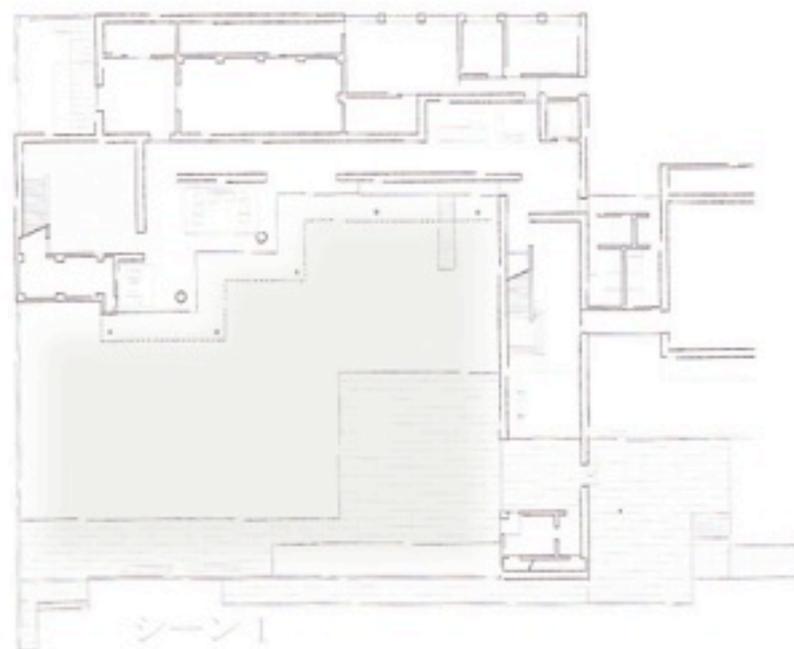
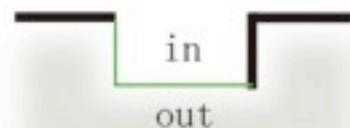
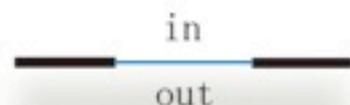
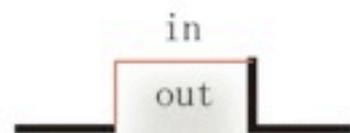
開口番号を振り、1シーンあたりの開口数を調べる。



2. 土門拳記念館 (1983)

3. 開口形態

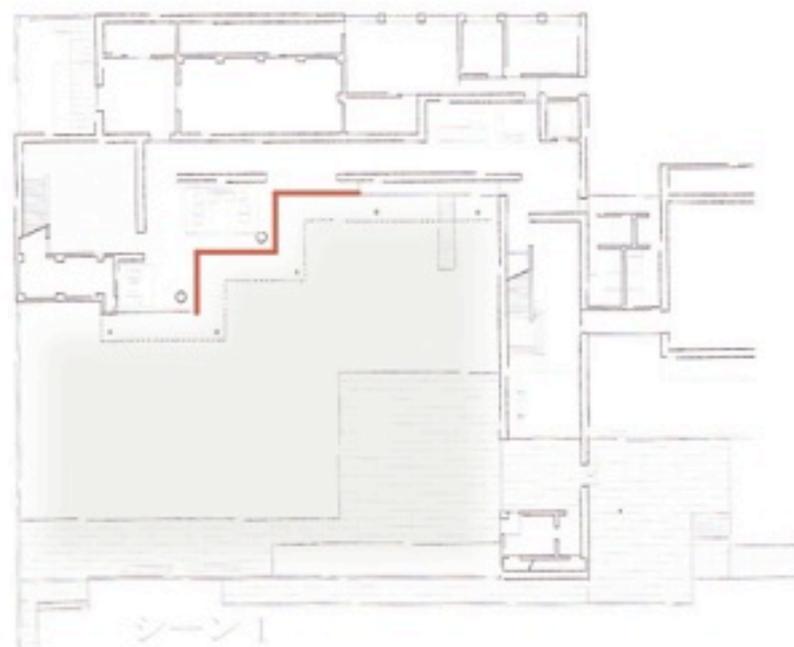
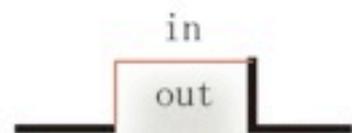
- a. 囲い込みタイプ : ポリウムに対して庭が入り込む。
- b. フラットタイプ : 庭とポリウムが並行する。
- c. 突出しタイプ : 庭に対してポリウムが突出す。



3. 長野県信濃美術館 東山魁夷館 (1990)

3. 開口形態

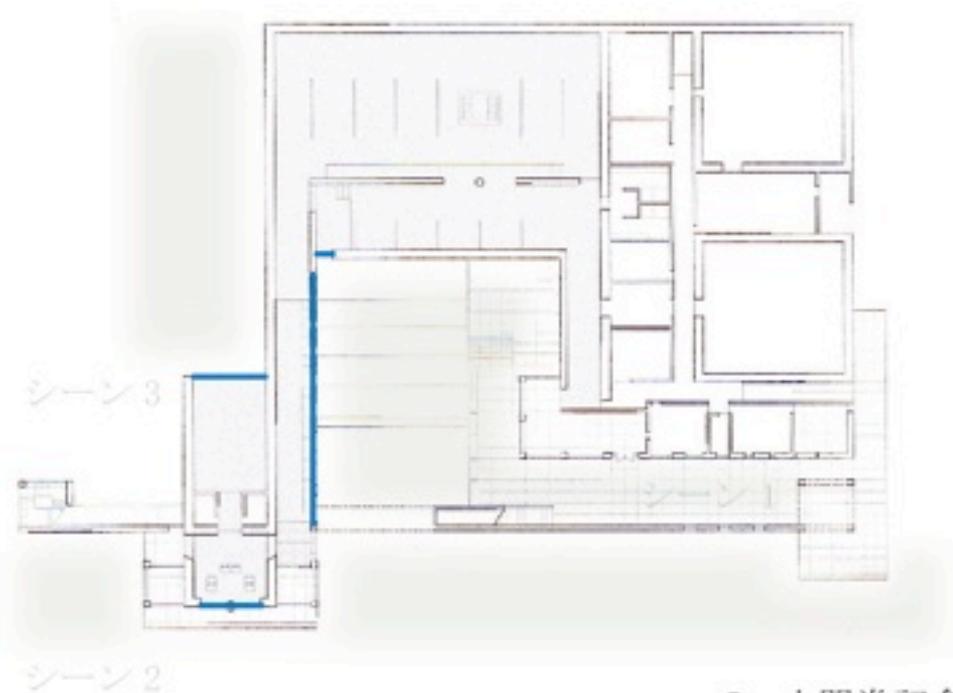
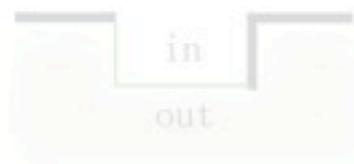
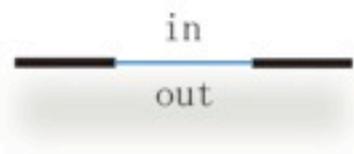
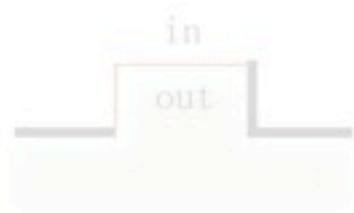
- a. 囲い込みタイプ : ポリユームに対して庭が入り込む。
- b. フラットタイプ : 庭とポリユームが並行する。
- c. 突出しタイプ : 庭に対してポリユームが突出す。



3. 長野県信濃美術館 東山魁夷館 (1990)

3. 開口形態

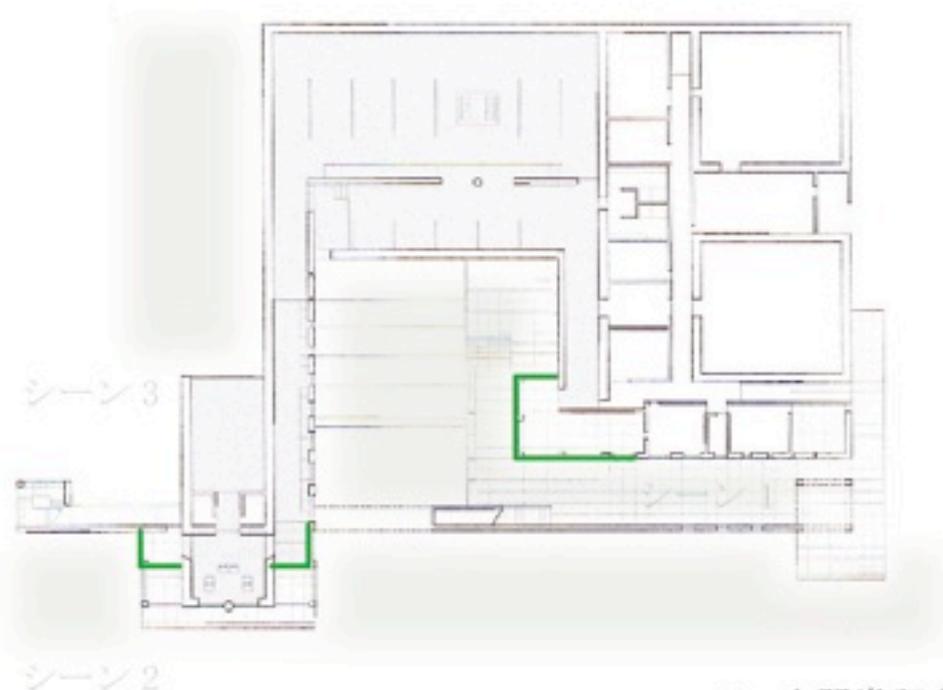
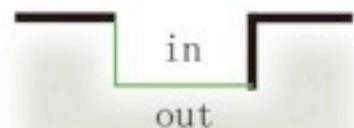
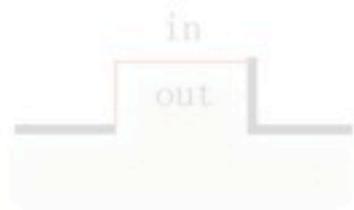
- a. 囲い込みタイプ : ポリウムに対して庭が入り込む。
- b. フラットタイプ : 庭とポリウムが並行する。
- c. 突出しタイプ : 庭に対してポリウムが突出す。



2. 土門拳記念館 (1983)

3. 開口形態

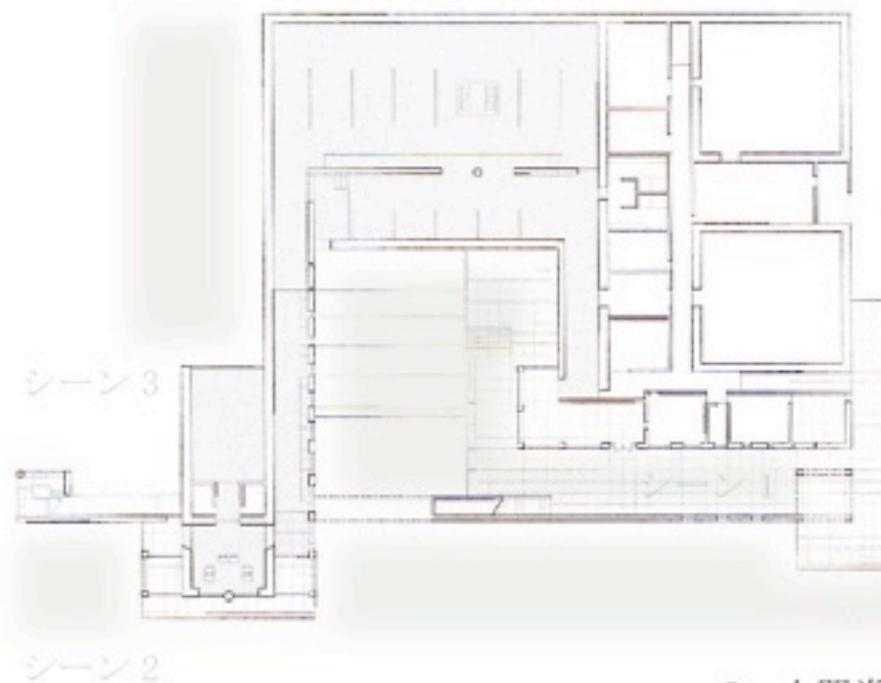
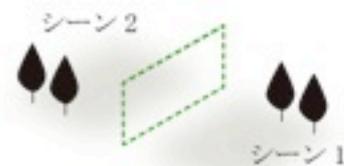
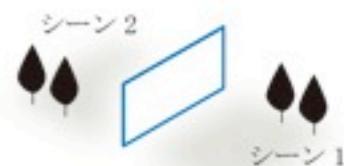
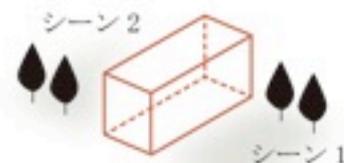
- a. 囲い込みタイプ : ポリウムに対して庭が入り込む。
- b. フラットタイプ : 庭とポリウムが並行する。
- c. 突出しタイプ : 庭に対してポリウムが突出す。



2. 土門拳記念館 (1983)

4. シーンを分ける要素

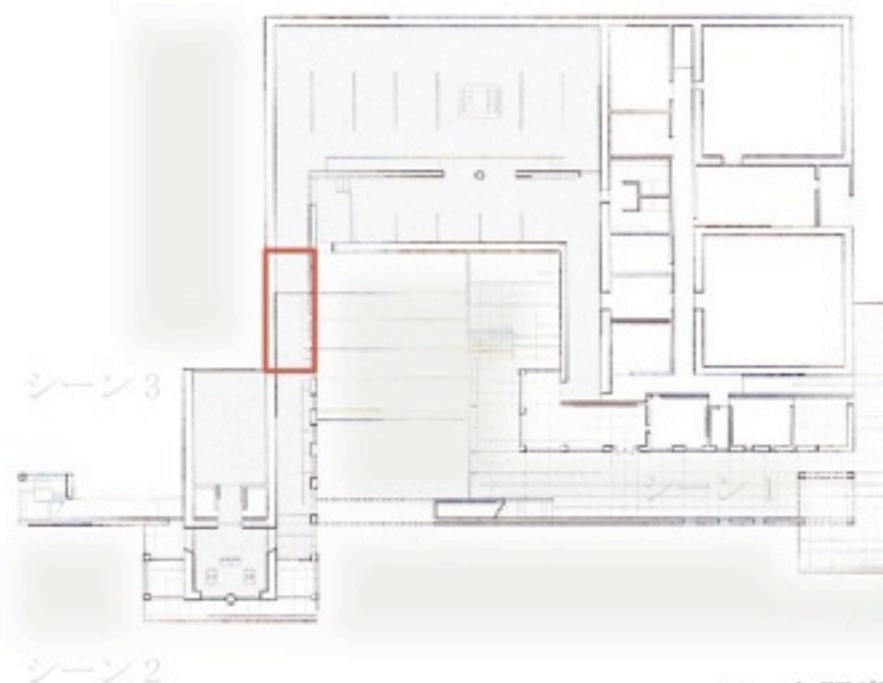
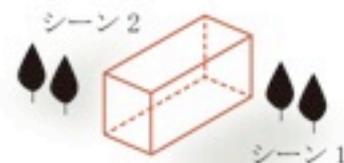
- d. 室タイプ : 2つのシーンを展示室等の室で分ける。
 e. 壁タイプ : 2つのシーンを壁で分ける。
 f. 境なしタイプ : 2つのシーンの間に境がない。



2. 土門拳記念館 (1983)

4. シーンを分ける要素

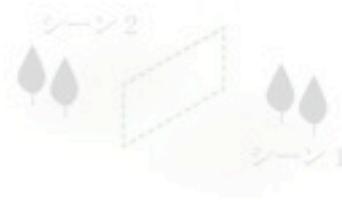
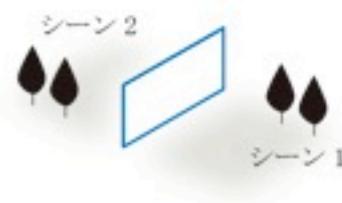
- d. 室タイプ : 2つのシーンを展示室等の室で分ける。
 e. 壁タイプ : 2つのシーンを壁で分ける。
 f. 境なしタイプ : 2つのシーンの間に境がない。



2. 土門拳記念館 (1983)

4. シーンを分ける要素

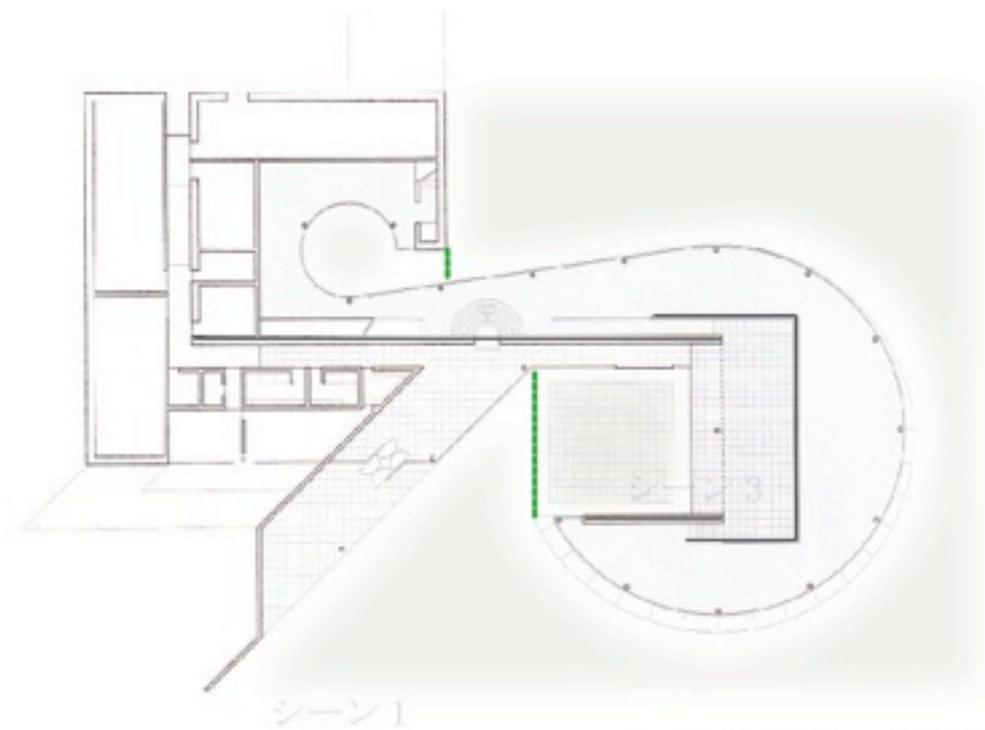
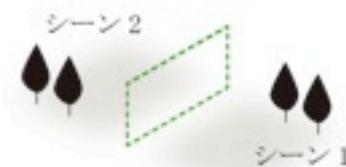
- d. 室タイプ : 2つのシーンを展示室等の室で分ける。
- e. 壁タイプ : 2つのシーンを壁で分ける。
- f. 境なしタイプ : 2つのシーンの間に境がない。



2. 土門拳記念館 (1983)

4. シーンを分ける要素

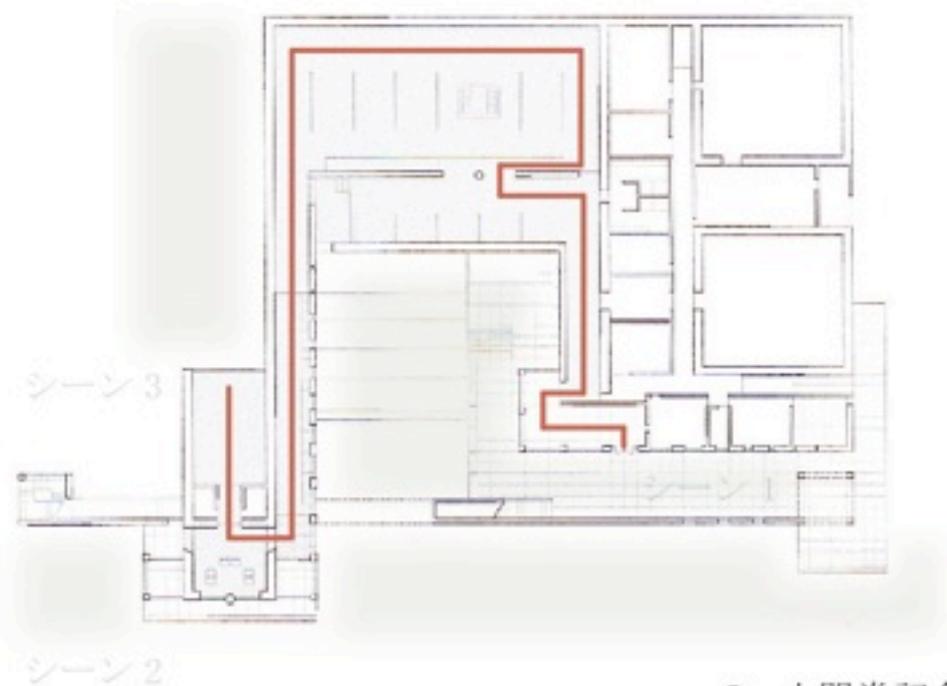
- d. 室タイプ : 2つのシーンを展示室等の室で分ける。
- e. 壁タイプ : 2つのシーンを壁で分ける。
- f. 境なしタイプ : 2つのシーンの間に境がない。



1. 資生堂アートハウス (1978)

5. 動線

通路や室の中心を通るように動線を仮定し、外部動線の有無を調べる。



2. 土門拳記念館 (1983)

分析1の結果

- 1) 谷口作品はシーン数が多く、それらを分ける要素としては「e. 壁タイプ」が多い。
- 2) 谷口作品は開口数が多い。
- 3) 丹下・前川作品の窓形態はすべて「b. フラットタイプ」
谷口作品の窓形態は「a. 囲い込みタイプ」「c. 突出しタイプ」が多い。
- 4) 後半の作品（作品4から9）においては外部動線を用いている。

谷口作品

丹下・前川作品

作品	シーン数	シーンに対する開口数				シーンに対する開口形態					シーンを分ける要素	外部動線の有無	
1	3	1	1	5		a	c	ac			e f	×	
2	3	5	5	1		bc	b	b			d e	×	
3	1	6				abc					-	×	
4	3	2	3	2		c	b	c			e	○	
5	5	4	5	2	3	3	ab	bc	c	c	c	d e f	○
6	4	1	1	1	1		b	b	b	b		e	○
7	2	2	3				c	c				d e	○
8	3	4	20	13			bc	b	b			d e	○
9	3	3	2	5			bc	c	b			d e	○
10	2	2	3				b	b				d	×
11	2	1	1				b	b				d	○
12	4	2	1	2	1		b	b	b	b	b	d	×
	3以上	3以上				aタイプとcタイプ					eタイプとfタイプ	外部動線あり	

分析1の結果

- 1) 谷口作品はシーン数が多く、それらを分ける要素としては「e. 壁タイプ」が多い。
- 2) 谷口作品は開口数が多い。
- 3) 丹下・前川作品の窓形態はすべて「b. フラットタイプ」
谷口作品の窓形態は「a. 囲い込みタイプ」「c. 突出しタイプ」が多い。
- 4) 後半の作品（作品4から9）においては外部動線を用いている。

谷口作品

丹下・前川作品

作品	シーン数	シーンに対する開口数					シーンに対する開口形態					シーンを分ける要素	外部動線の有無
		1	1	5			a	c	ac				
1	3	1	1	5			a	c	ac			e f	×
2	3	5	5	1			bc	b	b			d e	×
3	1	6					abc					-	×
4	3	2	3	2			c	b	c			e	○
5	5	4	5	2	3	3	ab	bc	c	c	c	d e f	○
6	4	1	1	1	1		b	b	b	b		e	○
7	2	2	3				c	c				d e	○
8	3	4	20	13			bc	b	b			d e	○
9	3	3	2	5			bc	c	b			d e	○
10	2	2	3				b	b				d	×
11	2	1	1				b	b				d	○
12	4	2	1	2	1		b	b	b	b	b	d	×
	3以上	3以上					aタイプとcタイプ					eタイプとfタイプ	外部動線あり

分析1の結果

- 1) 谷口作品はシーン数が多く、それらを分ける要素としては「e. 壁タイプ」が多い。
- 2) 谷口作品は開口数が多い。
- 3) 丹下・前川作品の窓形態はすべて「b. フラットタイプ」
谷口作品の窓形態は「a. 囲い込みタイプ」「c. 突出しタイプ」が多い。
- 4) 後半の作品（作品4から9）においては外部動線を用いている。

谷口作品

丹下・前川作品

作品	シーン数	シーンに対する開口数				シーンに対する開口形態					シーンを分ける要素	外部動線の有無	
		1	2	3	4	a	b	c	d	e			
1	3	1	1	5		a	c	ac			e f	×	
2	3	5	5	1		bc	b	b			d e	×	
3	1	6				abc					-	×	
4	3	2	3	2		c	b	c			e	○	
5	5	4	5	2	3	3	ab	bc	c	e	c	d e f	○
6	4	1	1	1	1		b	b	b	b		e	○
7	2	2	3				c	c				d e	○
8	3	4	20	13			bc	b	b			d e	○
9	3	3	2	5			bc	c	b			d e	○
10	2	2	3				b	b				d	×
11	2	1	1				b	b				d	○
12	4	2	1	2	1		b	b	b	b	b	d	×
	3以上		3以上				aタイプとcタイプ					eタイプとfタイプ	外部動線あり

分析1の結果

- 1) 谷口作品はシーン数が多く、それらを分ける要素としては「e. 壁タイプ」が多い。
- 2) 谷口作品は開口数が多い。
- 3) 丹下・前川作品の窓形態はすべて「b. フラットタイプ」
谷口作品の窓形態は「a. 囲い込みタイプ」「c. 突出しタイプ」が多い。
- 4) 後半の作品（作品4から9）においては外部動線を用いている。

作品	シーン数	シーンに対する開口数			シーンに対する開口形態			シーンに分ける要素	外部動線の有無
1	3	1	1	5	a	c	ac	e f	×
2	3	5	5	1	bc	b	b	d e	×
3	1	6			abc			-	×
4	3	2	3	2	c	b	c	e	○
5	5	4	5	2	3	3	ab bc e c c	d e f	○
6	4	1	1	1	1	b	b b b b	e	○
7	2	2	3		c	c		d e	○
8	3	4	20	13	bc	b	b	d e	○
9	3	3	2	5	bc	c	b	d e	○
10	2	2	3		b	b		d	×
11	2	1	1		b	b		d	○
12	4	2	1	2	1	b	b b b b b	d	×
	3以上	3以上			aタイプとcタイプ			eタイプとfタイプ	外部動線あり

谷口作品

丹下・前川作品

分析1 「どのように風景を見せているか」

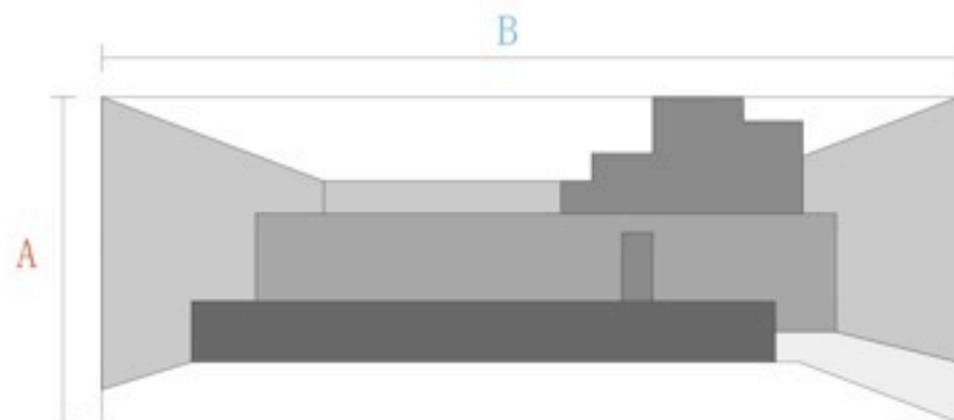
建築物（開口部）の構成要素の分析（文献）

分析2 「どのような風景を見せているか」

建築物から見える風景の構成要素の分析（現地調査）

データシート 2

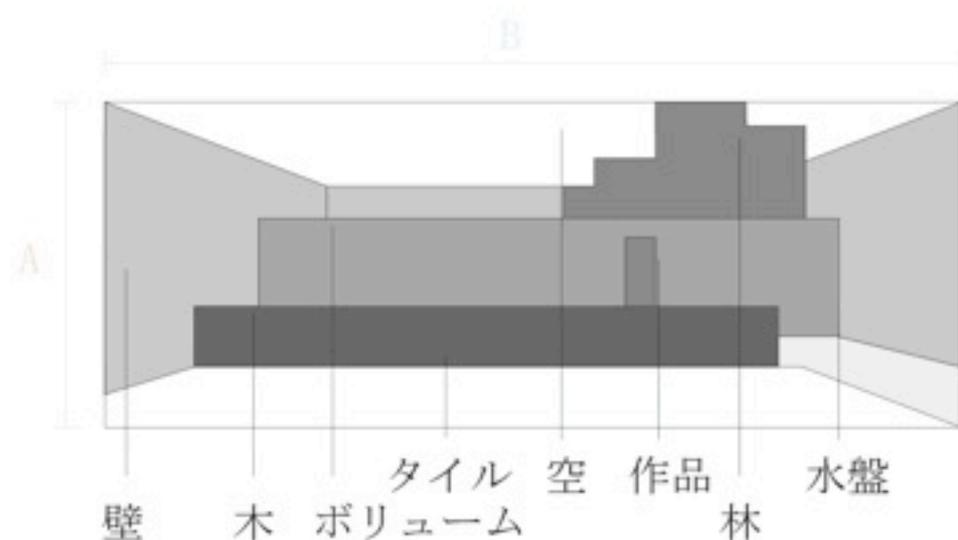
現地調査によって得た写真より、外部風景要素を簡略化。
作品番号・シーン番号・開口番号・開口の寸法を記入する。



No. 2-s1-② (作品番号 - シーン番号 - 開口番号)
A × B = 2700 × 7000 (寸法 高さ [mm] × 幅 [mm])

外部風景要素

タイル床 (タ)・芝・水・石や砂利 (石)・作品 (作)・単体で立つ木 (木)・柱・
 ボリューム (ボ)・壁・庇・群をなす木 (林)・敷地外建物 (街)・山・空・その他 (他)
 の15種。



No. 2-s1-② (作品番号 - シーン番号 - 開口番号)
 A × B = 2700 × 7000 (寸法 高さ [mm] × 幅 [mm])

フレーム比 (d)

フレーム比とは、風景を切り取るフレームとして働く要素 (ボリューム・壁・庇・柱・林) の合計面積が、開口面積に占める割合のことを指す。



フレーム要素面積 (S1)

開口面積 (S2) = A × B

フレーム比 (d)

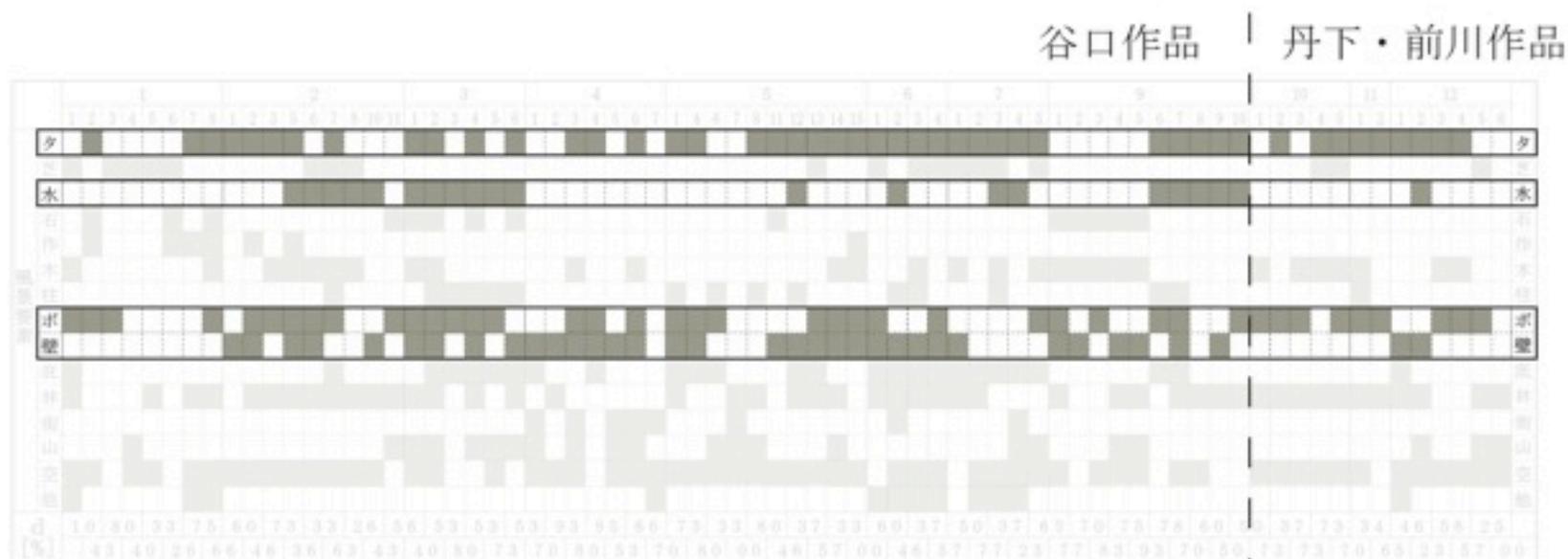
$$d = S1 / S2 \approx 0.66$$

No. 2-s1-② (作品番号 - シーン番号 - 開口番号)

A × B = 2700 × 7000 (寸法 高さ [mm] × 幅 [mm])

分析2の結果

- 1) 谷口吉生は風景の中で水平垂直のラインをはっきりさせている。
- 2) 柱・ボリューム・壁・庇の4要素が多く用いられている。
また、各開口のフレーム比に幅がある。
- 3) 谷口作品は、風景要素の種類と、その各開口ごとの変化が多様。





記述 1

開口の見える範囲を角度で表し、動線に沿ってグラフ化

記述 2

各開口部のフレーム比を美術館ごとにグラフ化。

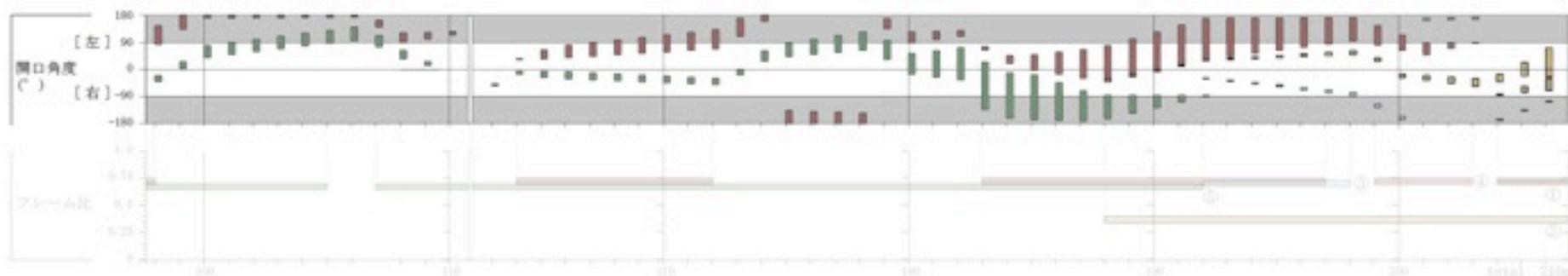
No. 2 土門拳記念館



記述 1

横軸は動線距離 (m)、縦軸は開口の見える範囲の角度 (°)。
動線の法線方向に1メートル間隔で角度を測り、グラフ化。

No. 10 熊本県立美術館



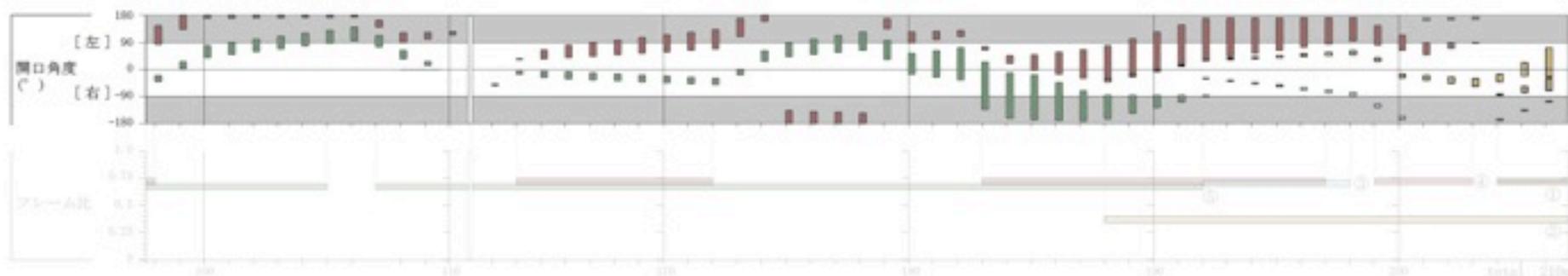
No. 2 土門拳記念館



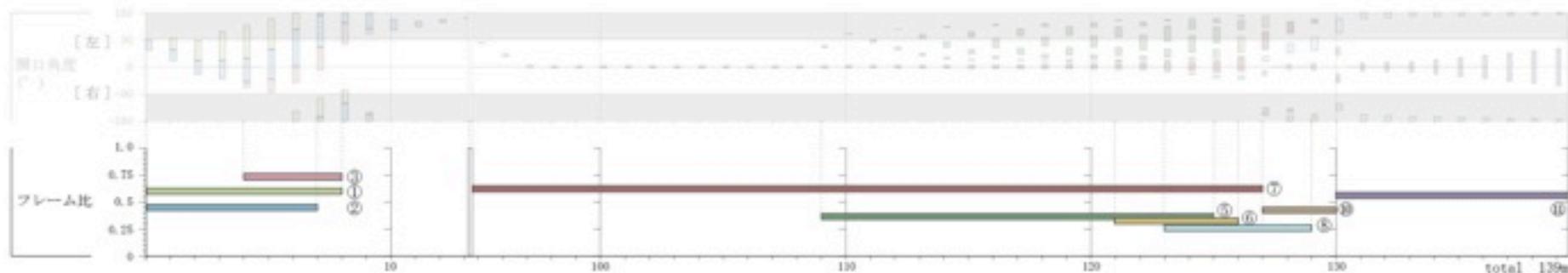
記述 1

動線の進行方向を正面 (0°) として、背面 ($\pm 180^\circ$) まで、
右側は 0° から 180° 、左側は 0° から -180° 。

No. 10 熊本県立美術館



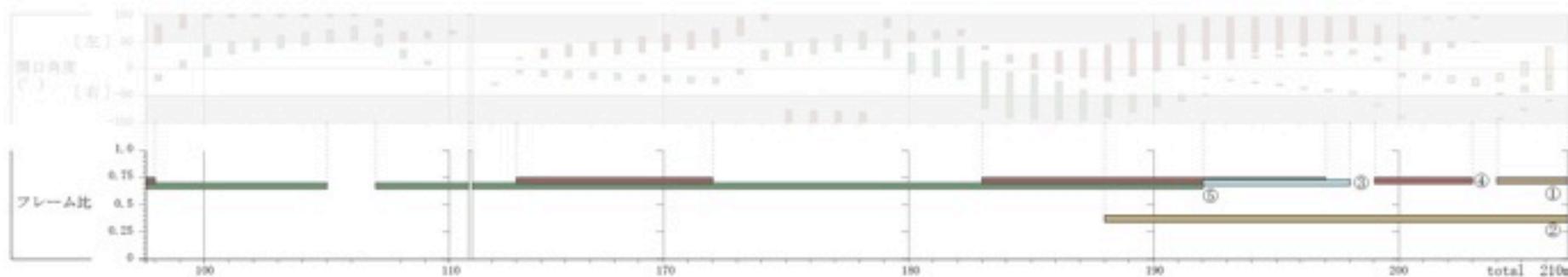
No. 2 土門拳記念館



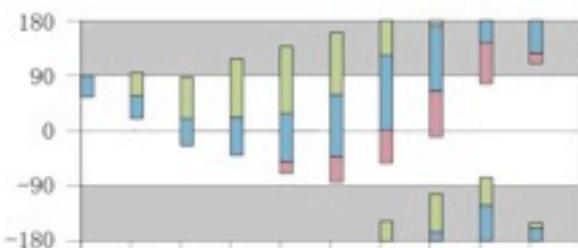
記述 2

横軸は動線距離 (m)、縦軸は開口部のフレーム比。
開口が 90° から -90° の間に表れているときの値をグラフ化。

No. 10 熊本県立美術館



No. 2 土門拳記念館



① 180° 以上の値

① 入館してすぐ目の前に「開口形態c. 突出しタイプ」による、開口180° 以上の大パノラマが広がる。

② 動線上のある1点から、同時に3方向に景色が広がり、3方向とも風景の広がり具合は異なる。

③ 暗い展示室から続く長い廊下の奥の正面に小さな開口が見え、徐々に視界が開けていく。

④ 細かく区切られた開口が左側に流れていく。

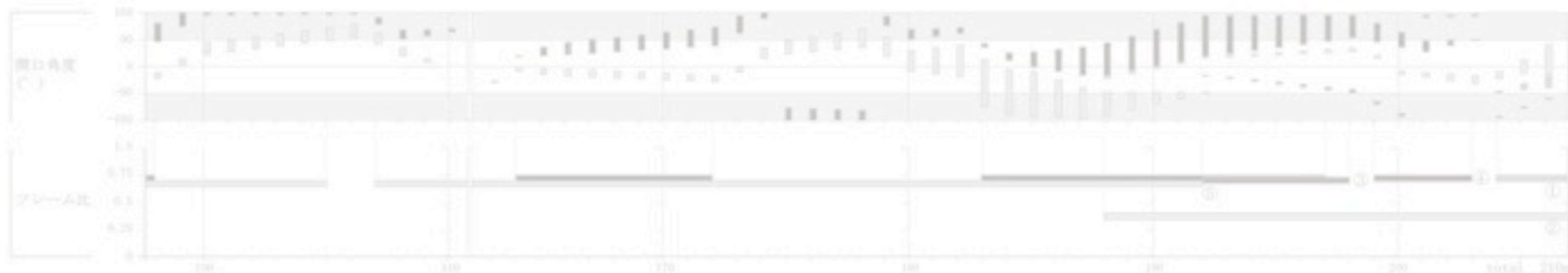
⑤ 一つの開口からの風景に絞られ、それに向かって歩く。

⑥ 開放的な風景が広がる窓（フレーム比の低い窓）が現れる。

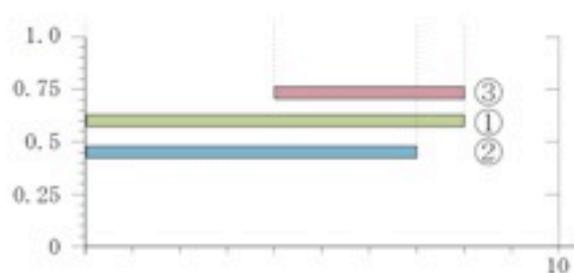
⑦ 2種の風景が左右を繰り返し行き来する。

⑧ 広がりが一定な風景が並ぶ。

No. 10 熊本県立美術館



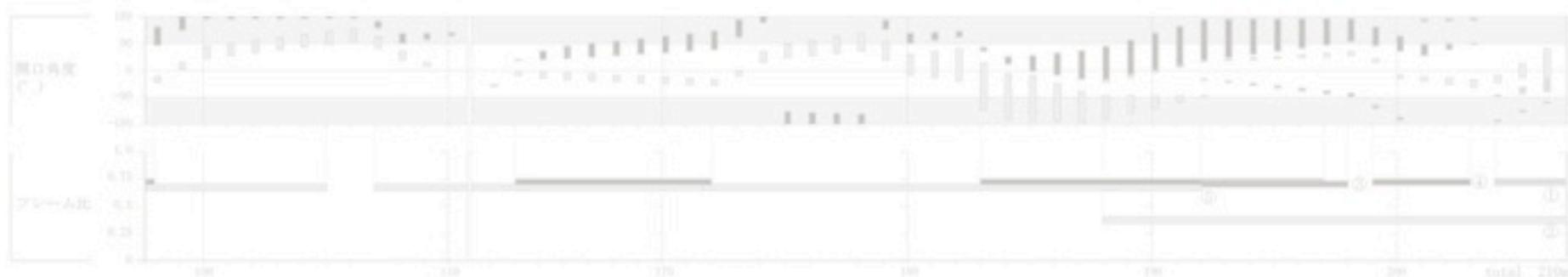
No. 2 土門拳記念館



②異なる値が並行する。

- ① 入館してすぐ目の前に「開口形態c. 突出しタイプ」による、開口180°以上の大パノラマが広がる。
- ② 動線上のある1点から、同時に3方向に景色が広がり、3方向とも風景の広がり度合は異なる。
- ③ 暗い展示室から続く長い廊下の奥の正面に小さな開口が見え、徐々に視界が開けていく。
- ④ 細かく区切られた開口が左側に流れていく。
- ⑤ 一つの開口からの風景に絞られ、それに向かって歩く。
- ⑥ 開放的な風景が広がる窓（フレーム比の低い窓）が現れる。
- ⑦ 2種の風景が左右を繰り返し行き来する。
- ⑧ 広がりがある風景が並ぶ。

No. 10 熊本県立美術館



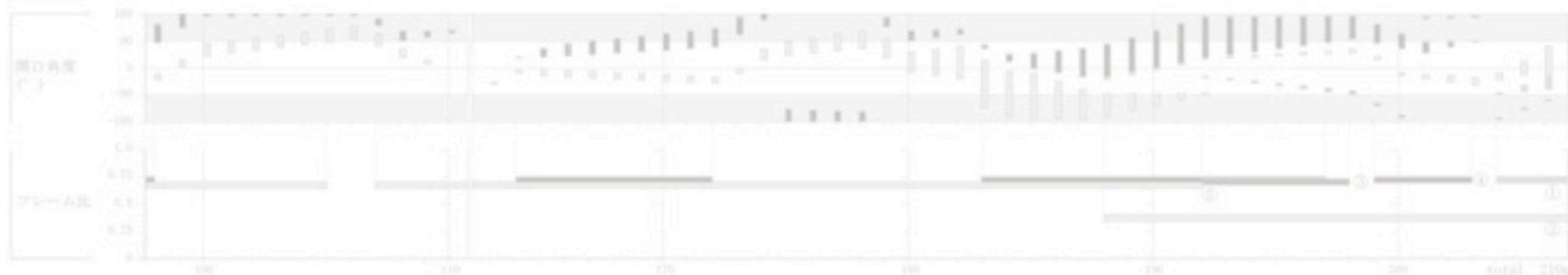
No. 2 土門拳記念館



記述の結果

谷口吉生の美術・博物館のシーケンスは限られた空間の中で細かく見え方や見えるものを変化させているとまとめられる。

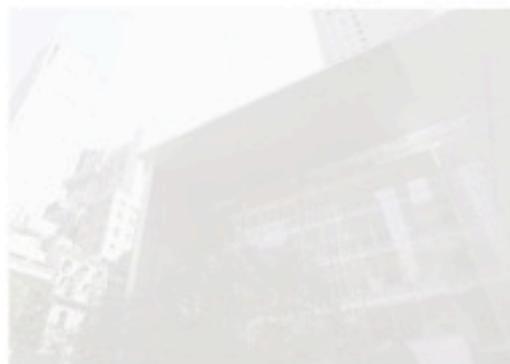
No. 10 熊本県立美術館





結論 谷口吉生の風景に対する設計手法とは

- 1) 内部にいながらも外部をより近くに感じさせるため、外部動線を設け、シーン数・開口数・開口形態・シーンの分け方を工夫。
- 2) 見える風景が単調にならないよう、多様な要素を多様な開口で変化をもたせて配置。
- 3) ボリュームや壁、庇をフレームとして、見える範囲を限定し、風景の広がりにも幅を持たせて変化を見せる。





結論 谷口吉生の風景に対する設計手法とは

- 1) 内部にいながらも外部をより近くに感じさせるため、外部動線を設け、シーン数・開口数・開口形態・シーンの分け方を工夫。
- 2) 見える風景が単調にならないよう、多様な要素を多様な開口で変化をもたせて配置。
- 3) ボリュームや壁、庇をフレームとして、見える範囲を限定し、風景の広がりにも幅を持たせて変化を見せる。





結論 谷口吉生の風景に対する設計手法とは

- 1) 内部にいながらも外部をより近くに感じさせるため、外部動線を設け、シーン数・開口数・開口形態・シーンの分け方を工夫。
- 2) 見える風景が単調にならないよう、多様な要素を多様な開口で変化をもたせて配置。
- 3) ボリュームや壁、庇をフレームとして、見える範囲を限定し、風景の広がりにも幅を持たせて変化を見せる。



